

外機密

電報 16 三五—四六

(略)

華府 十一月十六日午後  
本省 十七日午前

東郷外務大臣

野村大使

995

第一〇九號ノ二(外機密)館長符號扱

「ロ」大統領ハ近衛「メツセーチ」ノ來タコトニ對シ大イニ驚  
ヘリト傳ヘラレタルモ日本カ「ハル」ノ主要原則ナルモノヲナ  
ロ「ダウン」シタル爲兩者ノ交渉成立見込ハ乏シクナリ又國家  
主義易職サヘ續キ東條内閣ノ出現ニ依リ協定成立ノ見込ハ事實  
上消滅スルニ立至レリ

「ハル」ノ目的ハ太平洋ノ平和ヲ圖リ日米關係ヲ長ク平常化ス  
ンニアリタルモ交渉ノ進行ニ從テ兩國間ノ利益々深クナリ交渉

電信寫

當事者ヲシテ交渉ノ鍵ハ小範圍ノ協定を請フ行ニ眼前緊張緩和  
ヲ計ルコト明カユナリタリ

「ハル」長官カ本使ニ對シ前後二回三國同盟ト日本トノ關係ニ  
付執拗ニ語ル經緯ハ往電ヲ以テ御承知ノ通りニシテ十三日フ  
「インシャー」ハ寺崎ニ對シ國務省ハ來栖大使カ日本ハ三國同盟  
ニ對スル態度緩和ニ關スル何等カノ土産物ヲ持參セラルルニ非  
スヤトノ強キ希望的觀測ヲ有スル旨語リタル趣ナリ(了)

外機密

電信寫

昭和16 三四五〇 暗

華府 十一月十一日後發  
本省 十二日前着

東郷外務大臣

野村大使

第一〇七三號（館長符號致）（外機密）

往電第一〇七〇號ニ關シ

在米支那大使ハ昨日大統領ニ謁見シ文書（内容不明）ヲ手交セ  
ル趣ナリ（但シ會見時間二分ナリント云フ）右何等御參考迄

（了）

986

外機密

昭和16 三五五五〇 (略)

蓋府 十一月十九日後發  
本省 二十日後着

野村大使

987

東京外務大臣

第一一三四號ノ一(至急、前長符號抜)

「シニミツ」ラシテ十八日夜大審院判事「フランクファイター」ノ意圖ヲ探ラシメタル處十九日「シニ」ノ寺崎ニ語ル所左ノ通り「フランクファイター」ハ「オースタリ」系「ニダヤ」人ニシテ「ニダヤ」英米人ノ總本山ト云フヘク其ノ勢力ハ「モーゲンソ」ヲ凌キ且「リイブレンド」法起案者ノ一人ナルコト御承知ノ通りナリ「シニ」ハ「ニダヤ」系「オースタリ」人ニシテ「フ」ト呢懇ノ間柄ニ在リ

電信寫

Ms

「シニ」ハ場合ニ依ツテハ日米戦ノ勃發不可能ナラサル急迫セル現狀ニ在ル處日米戦ハ「ヒトラー」ラシテ最大ノ受益者タラシムヘキ點「フ」ニ對シ高調セル處「フ」全然同感ノ意ヲ表シタル後大統領ニ於テモ自分ニ於テモ太平洋ノ平和ハ強ク希望スル所ナルカ一方日本ノ出方ニ依リテハ日米戦必スシモ「ロ」政府ノ欲セサル所ニ非サル點最大ノ注意ヲ要スヘシ

「ローズベルト」ノ最大ノ關心事ハ國內問題ニシテ即チ米獨戰並ニ「ソ」聯援助ニハ輿論ノ全面的的支持ナキコトナリ「在電第一〇七七號御參照」然ルニ日米戦ハ(1)現在輿論ノ反對少キコト且戰事ハ日本ノ「アクション」ヲ待ツテ勃發スヘキニ付政府ハ「デフェンス」ノ名ニ於テ輿論ノ全面的的支持ヲ期待シ得ルコトハ「遠ハ利

外機密

電信寫

3

ト等はレナリ(續ク)

巧ニシテ米國ヲ刺戟セサル様最大ノ注意ヲ拂ヒ居ルヲ以テ如何ニ  
 大統領ニ於テ反獨熱ヲ煽リ居ルモ思フ様ニ行カス(四)國內統一ノ  
 效果アルコト(イ)英國側ヨリ一アフリカニ遠征軍派遣ノ屢々且強ク  
 要求シ居ル處輿論ノ支持ナク且準備未完成ニテ其ノ要望ニ應ジ難  
 キ處日米戦ハ之ヲ謝絶スルニ好キ口實トナルコト(ニ)日米戦ハ陸軍  
 竝ニ海軍ノ主力ヲ必要トセス主トシテ空中戦竝ニ潜水艦戦ニ依ル  
 ヘキ處右ニ關スル限り準備整ヒ居リ一方陸戦用「メンク」其ノ他  
 ノ武器ノ對英、對蘇輸送ニ影響ヲ及ボササルヘキコト(三)日米戦ハ  
 長期ニ亘リ且米本土以外遠隔ノ地ニ於テ日本ノ一時的勝利ハアル  
 ヘキモ右ハ問題トナラス結局ニ於テ確實ナル勝算ハ米側ニアルコ  
 ト等

SSC

外機密

昭和16

三五五五三

暗

華府

十一月十九日後發  
二十日發着

東洋外務大臣

野村大使

第一一三四號ノ二(至急、副長符號抜)

日米妥結ノ鍵ハ三國同盟ト日本トノ關係並ニ支那問題ニシテ前者ニ於テハ日本ハ「ヒットラー」ノ陣營ニ終始ヤサルヘキ意思表示後者ニ於テハ何等カノ形ニ於テ大統領ノ仲介ヲ日本側ヨリ積極的ニ希望スルコトニアリ米國ハ支那側ニ立チ居ルモ日本ニ對スルト同様決シテ強大ナル支那ヲ希望シ居ラス四億ノ人口ヲ有スル支那カ日本同様ノ強大國ト成ラハ日本ヨリ遙ニ殆末惡カルヘク米國民ハ即トシ米國政府ハ支那人及支那政府ノ何者ナルカヲ能ク承知シ

電信寫

居レリ一万大統領ハ日支仲介ニ關シ虛榮心ニ近キ強キ執着ヲ持テ居ル處其ノ氣持ヲ利用スルコトニ依リ大統領ヲシテ支那ノ味方ヨリ好意アル中立者ニ轉向セシメ得ヘシ

次ニ「フ」ヨリ急迫セル日米戰ノ勃發回避ニハ先ツ以テ「ガソリン」等日本ノ必需品ヲ日本ニ供給スル必要アル旨述ヘタル處「ガソリン」等ハ日本ノ南進又ハ北進、支那攻撃(「ヒットラーリズム」)及米國攻撃ニ使用セラルル惧アル現況ニ於テハ實行困難ナルモ日本カ「ヒットラーリズム」ヲ採ラサル旨ヲ何等カノ意思表示並ニ米國ヲ仲介トスル日支戰爭終結ノ意思表示ヲ行ヒ且米國カ之ヲ信用シ得ルニ於テハ石油其ノ他經濟壓迫解除荷乗ハ容易ナル問題ナル旨語リタル趣ナリ(了)

999

外機密

電信寫

*Ms*

昭和16 三五六八九 附

華府 十一月二十日夜發  
本省 二十一日附着

東海外務大臣

野村大使

第一一四五號（部長符號以）

日本國父調登父涉ノ現狀ニ關シ在米各館ハ勿論中用米公館ヨリモ  
 當方ニ對シ父涉候様通報方希望アル處當方トシテハ事件ノ性質上  
 屢次御來示ノ次第モアリ從來通報差控へ居ルモ事懸迫迫ニ伴ヒ米  
 ト密接ナル關係アル諸國大使殊ニ多數在留氏ノ保護ニ任シ居ル  
 在米各領事トシテ一應心付直ク必要アリト認メラルルニ付本省ノ  
 御裁量ニ依リ可然父涉經過通報方御取計相成度シ爲念  
 在北米各公館長・加・墨・伯・智・亞・英へ轉電セリ

1000

外機密

昭和13 三六六〇五 (暗)

華府 十一月二十七日  
本省 二十八日 前着

東郷外務大臣

野村大使

1001

第一一九八號 **館長符號扱**

豫テ本使ト昵懇ノ間柄ノ元海軍作戰部長「ブラット」提督ハ二十  
六日附速電(本使「ハル」會見後投函セルモノト認メラル)ヲ以  
テ自分一個ノ非公式意見トシテ日米兩國共思慮アル人物ハ何レモ  
太平洋戦争ハ現世界戦争ヲ長引カス事トナリ兩國ノ爲誠ニ不幸事  
ナルヲ知悉シ居リ從テ此ノ儘兩國國交ヲ決裂ニ導カンヨリハ此ノ  
際例ヘハ汎米會議ニ準スルカ如キ太平洋問題關係國會議ヲ政治的  
「プロレツチャー」ノ中心地外(例ヘハ「ホルル」等)ニ開キ

電信寫

局面打開ヲ計ル事モ一案カト存スル旨申入レ越セリ御參考迄  
(了)

外機密

電信寫

昭和16 三六七二八 (暗) 華府 十一月二十八日 午後  
本省 二十九日 前着

東郷外務大臣

野村大使

第一二〇八號 (官長符號扱、至急)

在電第一一四三號ニ關シ

二十七日「シユミット」ヲシテ大書院「フランクファーター」ノ意圖  
ヲ探ラシメタルニ「フ」ハ日米交渉ノ途上ニ於テ日本カ佛印ニ兵ヲ  
着シク増強シタルハ洵ニ遺憾ニシテ交渉ニ對スル日本ノ誠意ヲ疑ハ  
サルヲ得ス右カ「ハル」長官ノ二十六日附回答トナリタル故大原因  
ナリト述ヘ尙「シユ」カ全然絶望ナリヤト問ヘルニ對シ「フ」ハ絶  
望ニハアラサルモ甚々困難トナリタリ日米戦ハ「ヒットラー」ノ思

フ望ニ)シテ返ス返スモ遺憾ナルカ日本カ敵方ノ陣營ニアルコトヲ  
名實共ニ再確認ヘ防共協定調印ヲ意味ス「シツツ」米國ニ對シ尙犧牲  
ヲセヨト迫ルコトハ士氣無理ナル註文ナリ要スルニ日本カ米國ノ敵  
ニアラサルコトカ確認セラルレハ支那問題ノ解決ハ左シテ困難ニア  
ラス經濟壓迫緩和ノ如キハ寧ろ第二戰的問題ナリト答ヘタル返ナリ

(了)

1002



外機密

昭和16 三六九二八 (暗)

華府 十一月二十九日 後  
本省 三十日 前着

東郷外務大臣

野村大使

第一二一六號 省長符號故

二十八日附白堊通會見ニ關スル華府特情中

Authoritatively stated 及

Administrations spokesman

トアルハ「ローズベルト」大統領ノ

コトナル處「ロ」ヨリ出所ハ明示ヒサル様特ニ注意アリタル趣ナリ

(取扱方訓在感アリタシ)

1000

電信寫

外機密

昭和16 三六九二六 (暗)

華府 十一月二十九日 後  
本省 三十日 前着

東郷外務大臣

野村大使

第一二一七號 (大臣 照付 照取)

往電第一二一六號ニ關シ

昨二十八日日本新聞記者會見談中日本新聞ニ付社有「タイムス」  
當地特派員カ目ノ邊ノ説明ハ大統領ノ會見談ハ行ニ訂サレタル又  
旬ノ外ハ直接引用ヲ禁セフレ店ル價物ナルヲ以テ大統領トハ明記  
セストシテ報道セル所ハ使外會談中ニ繰返サレタル大統領及「ハ  
ル」長官ノ意見ヲ安約セルモノアルヲ以テ全文華府特情ニ依リ答  
照アリ度シ(一)

1000

電信寫

外機密

電信寫

昭和16 三七〇七三 (一) 華府 十一月三十日 後着  
本省 十二月 一日

東郷外務大臣

野村大使

1005

第一二二二號 (大至急、館長待號扱)

東條總理ノ演説ハ三十日ノ各終何レモ大見出シヲ以テ掲載シ居ル  
處右ノ内英米人ノ亞細亞民族 exploitation ハ must be purged with  
vengeance ナル文句ヲ特ニ大キク取扱ヒ居レリ一方新聞報ニ依レハ  
白壁館「ヤクレタリ」ハ東條首相ノ演説ニ付テハ「ハル」長官ハ  
直ニ「ウィームスフリング」ニ依テ中ノ大就領ニ對シ警告告ヤル  
處大就領ハ急遽豫定ヲ變更シ三十日午後同地ヲ出發一日午前中ニ  
ハ歸華ノ豫定ナル旨發表シ居リ右演説ハ米國側ニ於テ相當直傳ノ

具ニ併スヘキ慎レアルニ付可然御手配相成ト共ニ「テキスト」(邦  
文、英文)至急御送付相成度シ(了)

外機密

昭和18 三七三三〇 (暗) 華府 十二月二日後發  
本省 三日前着

東郷外務大臣

野村大使

1000

第一二三四號(館長符號扱、大至急)

貴電第八六九號ニ關シ(東條首相演說ノ件)

本件演說原稿發表上ノ手違ニ付テハ之ヲ此ノ儘放置シ置クコトハ  
交渉繼續ニ惡影響アルヘシト忠料セラレタルヲ以テ二日午前本使  
「ウエルズ」ニ會見ニ先立テ寺崎ヲシテ「バラントイン」ヲ國務  
省ニ往訪セシメ冒頭貴電ノ趣旨ヲ適宜説明セシメ暫キタル處其ノ  
際「バ」ハ日米關係緊張ノ此ノ「サイコロジカラ、モーメント」  
(ニ於テ)斯カル強硬聲明カ傳ヘラレ米朝野ニ多大ノ衝動ヲ與ヘ

電信寫

手

タルハ甚タ不幸且ツ危險ナルカ御話ヲ伺ヒ非常ニ安堵セリト述ヘ  
タル趣ナリ

尙寺崎ヨリ嘘キ立テタルハ米國新聞ナルヲ以テ自分ハ何等釋明ニ  
來レルニアラス唯事實ノ真相ヲ御傳ヘシタル迄ナルカ此ノ際兩國  
新聞ハ御互ニ冷靜ナルヲ要スヘク此ノ點此ノ上トモ御指導アリタ  
キ旨附言シ置ケル由ナリ(了)

外機密

昭和16 三七四八四 (暗) 華府 十二月三日 後發  
本省 四日前着

東郷外務大臣

野村大使

1000

第一二四二號 (大至急、前長符號抜)

諸般ノ情報ヲ綜合スルニ我方ノ「タイ」進駐起リタル場合宣戦ノ有  
無ハ別トシテ米側ニ於テハ英側ト協同直ニ何等カノ軍事行動ニ出ツ  
ルコトハ必至ト認メラル(了)

電信寫

手寫

外機密

昭和16 三七五〇五 (暗) 華府 十二月三日 後發  
本省 四日前着

東郷外務大臣

野村大使

1000

第一二四三號 (前長符號抜、大至急)  
往電第一二四二號ニ關シ

米國側ニ於テハ我方カ佛印増駐ヲ認テスル場合ニ於テハ先ツ領事  
館閉鎖ヲ要求シ來ルモノト豫想セラルルニ付一應領事引揚船等善  
後措置御考究置キ相成度シ(了)

電信寫

手寫

外機密

昭和16 三七五二六 (暗)

華府 十二月三日後發  
本省 四日後着

野村大使

東郷外務大臣  
第一二五三號 館長符號扱

二日夜「フライシヤ」ノ寺崎ニ語ル所左ノ通り

現政府ハ現在「ローズベルト」ノ「バーソナルインスツルメント」

トナリ居ルヲ以テ彼ノ感情ハ内外國策決定上重要ナル要素ナルコ

ト御承知ノ通りナルカ「ロ」ハ日米交渉ニ關スル限り當初ヨリ日

米妥結ノ強キ考ヲ有シ最近ハ又英露兩國モ之ヲ希望シ「印」ハ

題トナラス支那ノミ反對シ來タレルモノニテ今次交渉ニ於テ彼

ヲ纏ラセタル主ナル原因ハ先ツ來栖大使ノ來米ト東條首相ノ議會

電信寫

*Handwritten mark*

演説トカ殆ト同時ニ行ハレタルノミナラス議會開會中ニ關係ヨ

リモ強硬言辭アリ右ハ「ロ」ヲ取捲ク所謂「ウォーパーチー」

ノ強硬態度トモ相俟ツテ頗ル「ロ」ヲ興奮セシメタル所へ日本軍

佛印増強ノ報告續々ト入り來タリ「ロ」ヲシテ日本ニ誠意ナシト

思ヘル「サイコロジカルモーメント」ニ偶々支那側ヨリハ胡適及

宋子文ヨリ求<sup>4</sup>ナル所アリ遂ニ二十六日「ハル」長官ヨリ米側條件

ノ提出トナリタルモノニテ表面支那側ノ外交的勝利ニ歸シタル感

アルモ右ハ全然「ラツク」ニ依ルモノナリ此ノ間「ハル」ハ非常

ナ努力ト忍耐ヲ以テ何等カノ交渉妥結ニ努メ一時相當ノ希望(所

謂局部的諒解案ナリ)繁カレタルモ最早ヤ「ハ」自身殆ト精力ヲ

消耗シ盡セル實情ナリ尙右米側空氣ニ拍車ヲ掛ケタルハ今次ノ所

1000

外機密

電信寫

謂東條首相ノ演說ニテ日米關係ハ最モ緊迫セル關頭ニ立到リタル  
モ自分トシテハ本交渉ノ立役者タル米國及日本ニ於テハ依然戰爭  
回避ノ希望アリ英露亦之ヲ希望シ居ル基礎的状態ニハ何等變更ナ  
キモノト觀測シ居レリ(了)

1011



10.

REEL No. A-1226

0385

アジア歴史資料センター